

区長所信表明

項 目

- | | |
|--------------------------------|--------------------------|
| 1 はじめに | 4 御徒町駅周辺地区整備について |
| 2 「福祉プラザ台東清峰会」の開所について | 5 (仮称) 谷中防災・コミュニティ施設について |
| 3 「したまち演劇祭」及び「したまちコメディ映画祭」について | 6 補正予算について |

一般質問

6月10日の本会議において、区長・教育長に対し、各会派の代表7名による一般質問が行われました。質問と答弁の要旨は次のとおりです。



台東区議会自由民主党

いずみひろし
和泉 浩司

財政について

問 ①平成15年度に比べて、一般会計当初予算は77億円増加し、基金残高は238億円から320億円となっているが、この間の財政運営は十分満足のいくものであったか。②限られた財源を有効に活用するため、新年度予算では、どのように編成方法を改善するのか。③予算の適切な執行管理をどのように徹底するのか。④収入確保の取組みには、職員のコスト意識の醸成などの効果があると考えますが、どうか。また、区有地なども含めた資産の有効活用について、所見を伺う。**答** ①台東病院の開設等、様々な施策を実施した一方で、行政経営推進プランを策定し、事務事業の見直しなどを行ってきた結果、15年度に比べて、財政の対応力は高まっていると考えています。②新行政計画と予算編成を連携させたプレゼンテーションの実施や、予算査定段階において、各事業の必要性や実効性について全庁的な視点で議論を行う、予算編成調整会議の設置を考えています。③予算の配当保留や契約差金の配当繰戻し、執行過程での事業の実施方法の見直しなど、様々な工夫を行い、より適切な執行管理に努めています。④収入確保の取組みには、職員のコスト意識を醸成し、経営感覚を磨く効果があると認識しています。また、区有財産は、

活用ガイドラインに基づいて有効活用を努めており、20年度は土地及び建物の貸付料として、約4億円の収入がありました。

東京スカイツリー完成に向けた街づくりについて

問 東京スカイツリー開業に向けた、浅草の東側の整備について、①馬道通りは歩道が狭く、電線類地中化などの再整備が急がれる。また、区民会館南側の東参道は、観光バスの待機場所として常態化してしまっている。これらの一体的な整備が急務と考えるが、どうか。②隅田公園は、美観、安全性の向上のため、他の区有地や施設の活用により、少年野球場を拡張するなどの充実を図るべきと考えるが、どうか。③山谷堀広場は、樹木の整理や整地が必要ではないか。また、浅草北部地域における防災機能を備えた広場として再整備を行ってはどうか。**答** ①馬道通りの電線類地中化については、現地調査及び予備設計を行い、27年度の整備完了を目指し、交通管理者等との具体的な協議を進めます。東参道については、乗降場所の分散化に向けて協議を行っています。道路の一体整備に関しては、関係機関との調整を進めていきます。②少年野球場の拡張を図るとともに、スカイツリーのビューポイントを確保したいと考えています。そのため、公園管理事務所等の移転を含め、総合的な視点で検討しています。③スカイツリーの眺望など、新たな魅力を引き出すため、さらなる整地や樹木の整理が必要と考えます。また、避難場所として必要な防災機能の整備についても、鋭意検討していきます。



台東区議会区民クラブ

ふじひろかずお
藤 平 一 雄

東武鉄橋の橋上駅について

問 東武浅草駅は、松屋浅草の4階から上の階が閉店し、また、建物自体の老朽化も進んでいることから、将来の存続が懸念されている。関係機関と協議し、路線の存続に向けた検討の努力をするべきではないか。一方で、東京スカイツリーの建設も進み、浅草が新たな賑わいの場となっている。こうした中、新たな交通アクセスの研究も行われているが、台東・墨田の両区へアクセスすることができるよう、隅田川の東武鉄橋を橋上駅とすることについて、実現を目指す努力が必要ではないか。文化的な価値のある東武鉄橋の活用も含めて、検討すべきと考えるが、区長の所見を伺う。**答** 東武浅草駅は、浅草地区の重要なターミナル駅ですが、駅の結節機能や周辺整備について課題があると認識しています。また、東京スカイツリー開業の折には、わずか一駅で結ばれることから、スカイツリーとの回遊の重要な手段になるものと考えています。そのため、東武鉄道とは、駅の整備について話し合いを続けてきたところです。

橋上駅の可能性については、様々な課題がありますが、歴史的な建造物である東武鉄橋の活用や、現在の駅舎の整備については、スカイツリー開業に向け、今後も協議をしていきます。

吉原文化の活用について

問 本区には江戸時代からの歴史を有する「吉原」があり、歴史的な文化価値の高い地区である。歌舞伎の世界においては、「吉原」や「花魁」はなくてはならないものであり、その人気は高く、関心を呼んでいる。この吉原文化を観光的な視点から活用し、人の流れをつくる拠点にすべきと考える。そこで、区が率先して地元に対する働きかけや関係機関との協議を行い、地域発展のために、吉原地区において定期的に「花魁道中」を実施してはどうか。**答** 地域のもつ歴史や文化の特性を活かし、まちの活性化に取り組んでいくことは重要であると考えています。現在、観光マップ「台東ぶらり散歩」では、吉原神社、吉原弁財天等を紹介しています。また、花魁道中については、江戸の歴史文化を紹介するものとして、地元の団体が主催するイベントの中で実施されています。地域での実施については、関係機関との調整など、課題があることから、慎重な対応が必要であると考えています。



台東区議会公明党

しみずこういちろう
清 水 恒 一 郎

うつ病対策について

問 ①うつ病に対する正しい知識の普及啓発等をどのように進めているか。②地域での相談体制に、今後、どのように取り組むのか。③健康診断に精神疾患に対する項目の義務付けが検討されていると聞かすが、現状を伺う。④うつ病のリハビリや職場復帰の支援について、どのように関係機関と連携し、取組みを推進していくのか。⑤区の職員及び教員への対応状況を伺う。**答** ①講演会を行うとともに、事業所と連携し、研修等を実施しました。②保健所で心の健康相談事業を行っています。また、職員を対象に、自殺のサインに気づき、専門相談機関につなぐための人材育成研修を行います。③国では、労働安全衛生法に基づく定期健康診断で、メンタルヘルスの不調を把握する方法を検討しています。④事業所等の産業医や地域産業保健センター等の機関と連携し、従業員のメンタルヘルス対策を進めます。⑤精神科の産業医等による相談や各種研修を行っています。また、復帰プログラムを作成し、休職中の職員

がスムーズに職場復帰できるように取り組んでいます。教員に対しても、指導主事による個別の聞き取り等、様々な支援を行っています。

保健・医療・福祉・介護施策について

問 特別養護老人ホームの今後の待機者数の見込み及び待機者解消に向けての取組みを伺う。**答** 約350名の方が待機者となる見込みです。在宅サービスを基調とする一方、施設サービスに対する需要の増加にも配慮し、特別養護老人ホームの整備のあり方を、手法を含めて検討しています。**問** 保健・医療・福祉・介護の包括的なケアを提供するための施設整備を進めてきたが、どのように施設の連携を図りながら、在宅支援体制の強化充実に取り組んでいくのか。**答** 施設整備とあわせて地域包括支援センターを再編し、総合的な相談・支援体制の充実を図ってきました。各施設の機能が最大限に発揮され、適切なサービスが継続的に提供できるよう、連携強化に努めます。**問** 介護従事者の処遇改善が大きな課題となっているが、どのように支援していくのか。**答** 訪問介護事業所で働くホームヘルパーを対象として、介護福祉士資格の取得を支援するための助成を実施しています。また、区と事業所のホームページを連携させ、求人情報を提供しています。